



1.9
チューンの概要

標準取扱説明時間 : 0:10:00
ビデオ概算時間 : 0:06:30

ビデオを再生する

Agilent ICP-MS MassHunter 基礎
Rev.3.0.2 – February 2021
39

チューン

チューンとは

- ある特定の分析用に、装置の性能を最適化すること

チューンの種類

- [オートチューン]
- [カスタムチューン]
- [シグナルモニタ]

オートチューン

- 通常は、[オートチューン]を選択
- オートチューンが終了すると結果はバッチに保存される

- スタートアップでは、機器の基本的な性能である、ハードウェア設定に関するパラメータが最適化されているが、さらにバッチごとにオートチューンを行うと、その分析用に最適化することができる

- ブランクテンプレートから作成したバッチでは、[オートチューン]は選択できない

カスタムチューン

- チューンの対象となるレンズパラメータを個別選択してオートチューンを実行できる

- シグナルをモニタしながら各チューニングパラメータのスライドバーや値を操作して、個別にマニュアルチューニングすることもできる

- マニュアルチューニングした結果はバッチに保存される

シグナルモニタ

- 信号をモニタできる
- 各チューニングパラメータを変更できるが、バッチには保存されない

スタートアップとオートチューンの違い

- スタートアップでは、ハードウェア設定とレンズチューンを行う
- スタートアップの目的は、特定の条件で装置の状態をモニタすること
- スタートアップでのパフォーマンスレポートは、装置性能の傾向を知るために重要

ハードウェア設定とオートチューンのパラメータの関係

- スタートアップで最適化したハードウェア設定は、データ測定の時にも利用される
- プリセットメソッドを使うときは、オートチューンのチューンパラメータもプリセットメソッドに含まれており、最適化されたチューンパラメータはバッチに保存される
- スタートアップでの標準レンズチューンパラメータは、オートチューンには使われない

その他

- チューンレポートの作成方法
- バッチ測定中のチューン実行
- チューン実行時のバイアル設定
- カスタムチューンとその他のチューンの詳細については、「2.1 カスタムチューンとその他のチューン」ビデオを参照